



新羽中だより

平成 29 年 11 月 21 日 (火)
2017 年 No.7 11 月号
横浜市立 新羽 中学校
☎542-1680 FAX 541-1038

【HP】 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/nippa/> 【メール】 l2-nippa@edu.city.yokohama.jp

● 校長の授業見学日誌 2017 part 7 ●

～ 数学により養われる思考力とは何か ～

【1 年 1 組】 数学科 田中 久宜 先生

少人数授業にて、方程式の利用について学んでいました。今から 1700 年ほど前のギリシャの数学者ディオファントスのお墓には、彼の一生について次のように書かれていたそうです。「彼は、一生の 6 分の 1 はかわいい少年だった。その後、一生の 12 分の 1 たってあごひげを伸ばした。さらに、一生の 7 分の 1 たって結婚し、その 5 年後には子どもが誕生し、幸せになった。しかし、この子どもは、父の一生の半分だけの年月しか、生きることができなかった。そして、父はこの子の死後、4 年後にこの世を去った。」ディオファントスは、何才まで生きたのでしょうか。これについて、授業では方程式を利用して考えていました。彼の一生を x 才として、 $x = \frac{x}{6} + \frac{x}{12} + \frac{x}{7} + 5 + \frac{x}{2} + 4$ という式をたて、解いていきます。 $X=84$ が求められ、84 才まで生きたことが分かりました。先生の穏やかな声とともに、学ぶ教室は静かです。一人ひとりの基本姿勢のますますの充実に、今後なお期待します。



【2 年 2 組】 数学科 高橋 主哉 先生 柏木 誠 先生



本時は TT (ティーム・ティーチング) 授業の形態で、2 名の先生が 1 教室に入り、連立方程式とグラフについて指導されていました。2 元 1 次方程式のグラフの交点の意味について考えることが、ねらいです。例題として、 $2x - y = 1$ のグラフに $x + y = 5$ のグラフを書き入れて、2 つの直線の交点の座標を読み取ります。 $x + y = 5$ は、 $y = -x + 5$ と置き換えられるので、グラフでは 2 コンマ 3 で交わります。このことを連立方程式で① $2x - y = 1$ ② $x + y = 5$ として解くと、 $x = 2$ $y = 3$ になります。このことから、連立方程式の解は、それぞれの方程式のグラフの交点の x 座標、 y 座標の組であるということが導かれました。問題練習に入るところで、6 名単位の小グループになり机を移動して、学び合いを行います。騒がしさはなく、すみやかに学習に入りました。全体に、ノートやワークシートに真剣に向かっている様子が、立派です。

【3年1組】数学科 高橋 主哉 先生

新秋快適の候、9月の下旬に見学した関数の授業です。関数 $y = ax^2$ の値の変化、値の増減について考える時間でした。 $a > 0$ のとき、最初は減少し、原点 0 を境に増加するが、 $a < 0$ のとき、最初は増加し、原点 0 を境に減少することをグラフを書いて確かめました。すなわち、一つのグラフの中で減少と増加を含んでいるということです。終始、静粛でよく説明を聞き、ノートを真剣に取っています。思考は活発であるのか、気になりましたが、 $y = ax^2$ の変域を調べる学習で、発表活動が行われました。関数 $y = 3x^2$ について x の変域が $-1 \leq x \leq 2$ のときの y の変域を調べます。グラフを書いてしっかり確かめることを、先生は、何回も指示されていました。用語が専門的であり、私たちの実生活と縁遠い勉強のような印象をぬぐえませんでした。決してそんなことはないことをどこかで学べるとよいと感じました。



◆ 創立 40 周年の思いを託した文化祭 ◆

文化祭委員長 3年1組 山崎 柊也 さん

今年の文化祭は、40回目という節目の文化祭でした。そして、私は文化祭を終えて、皆さんにとっても感謝しています。私は文化祭が始まる前に、「文化祭は新羽中全校で作上げるものだ」と話しました。そして、当日私は、皆で盛り上がっているかを期待して見ていました。すると、皆が皆、笑顔で盛り上げていたので、私はとてもうれしく感じました。本当に皆で作上げられたと思います。全校生徒の皆さん、本当に感謝しています。

♪ Y校講堂で歌い上げた感慨 ♪

合唱委員長 3年2組 三上 恵美 さん

今年度、行われた合唱コンクールにおいては、きっと多くの人が練習を通して「今までよりクラスの絆が深まった」と感じているのではないのでしょうか。全員で決めた一つの曲に、それぞれのクラスが伝えたい想いを込め、歌えていたと思います。

例えば、ロボットが歌っていたとしても、感動する人は少ないと思います。人が歌に想いを込め、その想いが伝わったときに感動が生まれるものだと、私は思っています。今年は何のクラスも、歌に想いが込められていて、とてもよい合唱だったと思います。何より歌っている本人たちが、十分に満足できる歌を歌えたのではないのでしょうか。賞よりも、その気持ちが大切だと思います。合唱コンクールが終わった後、多くのクラスから良かった、楽しかった、よい思い出になった、などの言葉を多く聞けて、委員長としても、一生徒としても、何よりも嬉しく思いました。

また、合唱コンクールで、涙を流している人をたくさん見かけました。本気で取り組まなければ、悔し涙も、嬉し涙も流れないと思います。それほど想いがこもった涙は、とても



きれいで、美しく見えました。一滴の涙には、とても素晴らしい想いがこもっていると思います。どうか、その気持ちを忘れないでほしいと思います。

この素晴らしいコンクールの委員長になれたことを、誇りに思います。とてもよい経験に、そしてよい思い出になりました。一緒に取り組んできたクラスの仲間や合唱委員の皆に感謝するとともに、これからもこのような行事が続いてほしいと思います。

● 第 67 回社会を明るくする運動標語コンクール結果 ●

港北区社会を明るくする運動実施委員会により、本年度各校 2 点の優秀作品に選ばれた新羽中学校の生徒標語を紹介します。私たちの生活にとっても身近で、大事な一言ひとことだと思います。

すくわれる あなたのたった ひとことで 1年 里見 虎太郎 さん
それはダメ きちんと言える 友になろう 2年 加藤 航矢 さん

● 創立 40 周年記念式典 学校長挨拶 ● 校長 宮本 昌季

10 月 18 日(水) 本校体育館にて

昭和 53 年 4 月 1 日に新羽中学校は、新羽丘陵のこの地に開校いたしました。今年、人でいうと不惑と言われる 40 歳を迎えました。不惑というのは、論語という書物で中国古代の思想家 孔子が残した言葉です。人生の年輪を蓄えていくとき、40 歳というのは、迷うことなく自分の人生を社会のために活かしていく時だということになります。学校でいえば、新羽中学校は、地域の皆様とともに中学校に通う生徒の皆さんを温かく見守り、社会にとって有用な人材として育てていただくことを、迷うことのない使命とするということです。社会が大きく変化しようとも、時代が移ろうとも変わらない永遠の課題です。



私たちは、竹の節目と同じように、木々の年輪と同じように、歩んできた道のりを時に見つめ直し、これからの歩みを確かめ合っていくことが大切になります。昭和 53 年(1978 年)は、成田に新東京国際空港が開港したり、日中平和友好条約が調印されるなどした年です。社会の経済構造も大きく変化し、消費文化が浸透し始めていきました。



そのような年、「慈しむ生命、助け合い、育む個性、切り拓く生き方」を学校教育目標に、新羽中学校は開校しました。人として生きる時すべての命を尊び、お互いを支え合い、自分を大事にして、自らの人生を追求していこうという意味です。校章のデザインの由来も、新羽の羽を図案化し、たくましく、力強く羽ばたき、巣立っていく中学生を象徴しています。機会あるたびに斉唱してきている校歌の歌詞も今改めて、よくかみしめてみ

みましょう。それらを皆さんの今の生き方に重ね合わせて、考えてみてください。新羽のこの土地で生活し、新羽中学校で学ぶことの意義深さを感じ取ってください。思いを新たに学校生活を新鮮なものにするために、文化祭開会式の時間をいただいて、お話しいたしました。